

＼みんなが創る！みんなを守る！／

かみすの医療

Vol.3

市民・企業

行政

医療機関

医療政策の現状や課題をお知らせします 皆さんの賛同と参加をいただきながら、全力で取り組みます

新型コロナが5類感染症に移行し、半年が経過しました。発生からこれまで、市民・企業の皆さんの感染予防策、医療機関の発熱外来や入院受入、消防本部の迅速な救急対応など、オール神栖で感染対策にご尽力いただいております。ここにあらためて感謝を申し上げます。

市では、今年度から第3次神栖市総合計画がスタートし、魅力ある誇れる神栖市を目指して各種事業を推進しています。医療では、神栖市地域医療体制検討委員会の提言を踏まえた取組により、救急搬送時間の短縮、診療所の誘致、医療人材の確保など大きな成果を得ることができました。しかしながら、挑戦は道半ばであり、コロナの経験からは、二次救急医療体制の拡充、かかりつけ医の普及、オンライン診療やDXの推進などの一層の強化も求められています。

本冊子は、市民・企業の皆さんに医療体制整備の取組や課題をお伝えするために作成したものです。限られた医療資源の中で高みを目指して活動する医療人の存在も知っていただければ幸いです。このような情報提供や普及啓発を継続し、幅広い方々の賛同と参加をいただきながら、安全安心な医療体制の確立を目指してまいります。

神栖市長 石田 進



医療体制

- ▶ 市内の入院受入体制の拡充を図ります
- ▶ 心臓疾患や脳疾患、がん診療などの高度急性期医療が強化されます
- ▶ 安心できる療養環境を整備促進します

令和6年度には白十字総合病院の新病棟完成による病床フルオープンや鹿嶋ハートクリニックの特例病床の新設提供。将来的には再編統合による新病院350床が開設予定。市内入院割合は現行42%から75%程度へ増加できる見込みです。

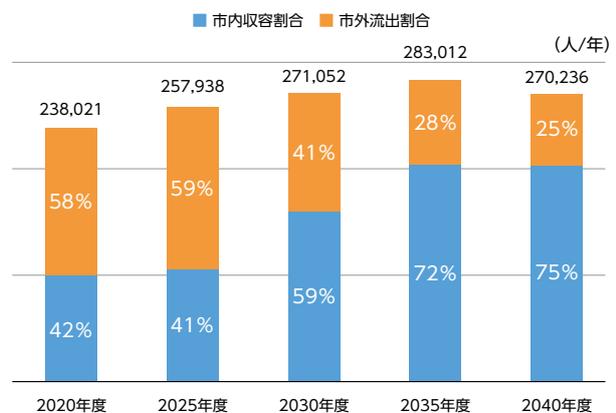
また、これらの整備実現により、より高度な手術の提供などの救急や入院を中心とする急性期医療の一層の充実、快適な療養環境の提供、回復期リハビリテーション機能の充実などの円滑な入退院体制の充実が期待されています。

市では、各医療機関の取組を助成しています。

将来人口は減少しても、入院患者は増加します。入院病床の整備が急務となっています

市内医療機関の整備等により、今後さらに195床が提供可能となることから、市内収容率の向上が期待されます。

〈神栖市入院患者数の推計と市内収容割合〉

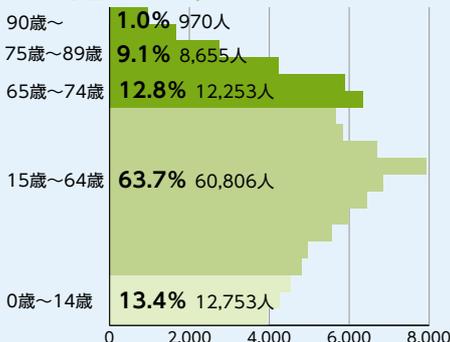


(増床等の内訳)

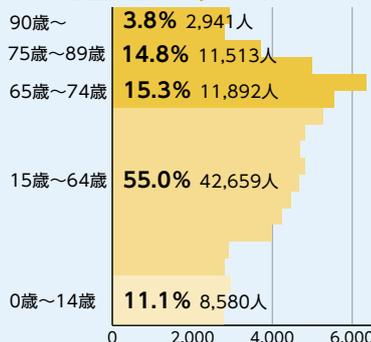
- 白十字総合病院 20床提供再開(2024年度予定)
- 鹿嶋ハートクリニック 4床増床(2024年度予定)
- 2030年度及び2035年度は、神栖済生会病院のファーストステップ56床増床とセカンドステップ115床増床が既に稼働しているものとして試算

神栖市の将来人口推計

2020年全人口 95,437人



2045年全人口 77,585人



国立社会保障・人口問題研究所
「日本の地域別将来推計人口(平成30年推計)」

平均寿命



厚生労働省「令和2年市区町村別生命表」

慢性期病棟の療養環境の向上、鹿行地域でも数少ない回復期リハビリテーションの拠点整備

白十字総合病院は急性期から回復期、慢性期医療など総合的な診療を提供しています。令和6年度中に新病棟の整備が完了し、304床のフルオープンの実現が目指されています。これらに併せて、市では、同院の各診療科の充実支援、特に重要課題である産婦人科の体制強化にも取り組んでいます。



新棟イメージ
(2024年度供用開始予定)



鹿行地域で唯一の心臓外科診療を担う鹿嶋ハートクリニックの病院化

鹿嶋ハートクリニックは、高度急性期病床4床や手術室の増設、医療機器の整備等を予定。将来的には、診療所では提供できなかった高度な手術が可能となるとともに、24時間365日の救急患者の受入や緊急手術へ対応できる体制が構築されるため、当市における循環器疾患(心疾患や脳疾患)の医療体制が格段に改善されることが期待されます。令和6年度には23床を有する病院となります。

私の目標は、すべての心臓外科治療を当院で完結できるようにすることです。実現に向けてはまだ課題がありますが、いずれは地域の皆さんが、心臓外科で提供できる医療はすべて受けていただけるようにしていきたいです。



心臓血管外科
センター長
古谷光久 医師

神栖済生会新病院整備は建設費高騰により見合わせ中

同院は現在、小児、整形外科、消化器がん診療などをはじめとする急性期医療、救急医療の拠点病院としての機能を担っています。平成30年の再編統合の協定書の調印等を踏まえて、新病院は350床程度、急性期医療機能、災害拠点病院機能などの更なる拡充を図っていくことが期待されています。令和4年8月、事業費の増大等により実施設計や建設工事を当面見合わせることにされました。市では、推移を見守りつつ、協定に基づき県及び病院と情報共有を図りながら、引き続き必要な支援を行います。

時期未定	セカンドステップ350床程度の整備
時期未定	ファーストステップ235床程度の整備
R4年 8月	実施設計の見合わせ
R4年 5月	新病院整備基本設計の策定
R3年 3月	新病院整備基本計画の策定
R1年 7月	済生会土合クリニック開院
H31年 4月	再編統合
H30年 10月	厚労省から再編統合における病床再編の同意
H30年 8月	病床再編について県医療審議会からの答申(同意)
H30年 7月	基本合意書に関する4者での協定書の締結
H29年 8月	再編統合に係る4者での基本合意書の締結
H28年 5月	鹿島労災病院と神栖済生会病院の今後のあり方検討結果報告書のとりまとめ

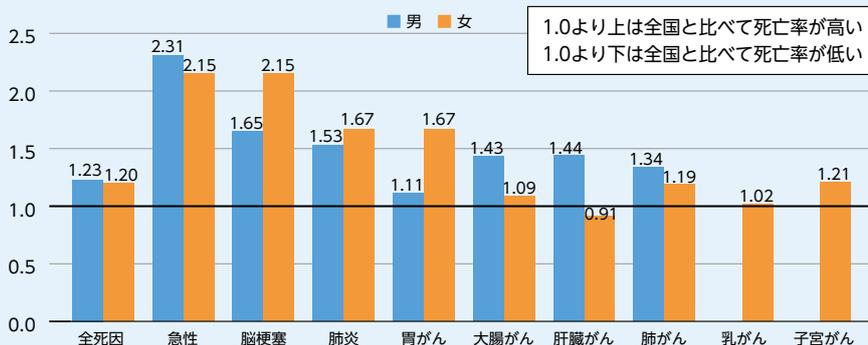


全国トップレベルの手術実績を誇る眼科診療所などがオープン

診療所開業支援制度や診療体制強化支援事業費補助金などを活用して、新たな診療所の開業や検査、診療体制の強化が進んでいます。

新規診療所の開業(P4、P5参照)

神栖市の死亡率



健康寿命を延ばすには

久しぶりに健診を受診する人や精密検査を受けない人ほど重い症状が見つかることも。なぜ、もっと早くと…。市が実施する住民健診や各種がん検診は無料で受診できます。早期発見、早期治療を。



健診・がん検診など
(市ホームページ)

連携協力

- ▶ 急変した在宅患者の迅速な受入れ体制づくりに取り組んでいます
- ▶ かかりつけ医となる診療所の市内への誘致が進んでいます
- ▶ 産業都市にふさわしい医療体制づくりに努めます

自宅や高齢者施設等で急変した在宅患者の入院調整を行う仕組みを医療機関と市で話し合い、白十字総合病院と市内診療所の間で取り組みを開始しました。

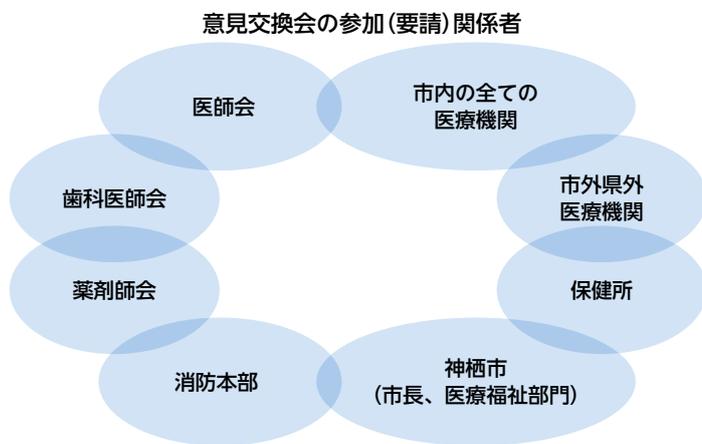
令和元年度に診療所開業支援制度を創設。制度活用によりこれまで6つの診療所が開業しました。

令和4年度に企業・医療機関・行政連絡調整会議を設置。労働災害によるケガや病気などの工場が抱える課題や要望を聞き、産業都市ならではの医療体制整備に努めています。

医療分野におけるデジタル化の進展、オンライン診療の普及など、社会の動きを注視し、将来の変化に備えていきます。

医療関係者が一堂に集う意見交換会。医療政策、医療機関相互の連携など様々な課題を協議しています

あらゆる関係者にお声掛けして開催する意見交換会を令和元年度から3回開催しました。そこでは救急搬送のあり方、在宅患者の市内での入院受入体制、企業からの要望と対応方針など、役割分担や協力連携体制づくりといった現場で直面する様々な案件の検討や提案などの話し合いを行っています。

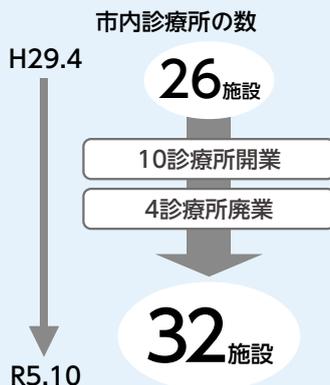


市内医療機関数

病院	救急機能	2施設
	慢性期機能	2施設
診療所		32施設
うち在宅医療		16施設
歯科診療所		34施設
うち在宅訪問歯科診療		7施設

令和5年9月時点

診療所数の増減及び比較



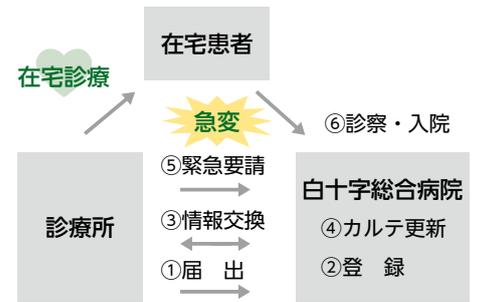
令和4年人口10万人当たりの診療所数比較



在宅医療ワーキングチームを設置して、緊急入院への備えなどを協議

在宅患者の急変時に備え、あらかじめ診療所の届出を基に、白十字総合病院において患者情報を電子データとして登録、保管。定期的に更新し、24時間体制で円滑な受け入れを可能にしました。

白十字総合病院の在宅患者受入体制



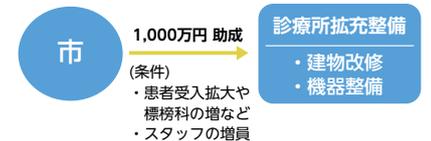
診療所の誘致や各診療所の機能拡充を促進しています

どの世代の方にとっても健康をサポートする頼もしい存在となってくれるのが「かかりつけ医」です。それを担う診療所の不足、地域偏在の緩和のため、新たに診療所を開設する方へ開業資金を貸与したり、診療科の新設や検査診療体制の拡充を図る診療所の取り組みを支援しています。その結果、内科や外科、小児科、眼科など6つの新規診療所がこの制度を利用して開業しました。

診療所開業支援制度



診療体制強化支援制度



医療体制の充実整備は、産業都市の維持発展に不可欠です

労働災害への対応、従業員や家族の健康管理と医療提供など、企業が日頃からどのような課題を持っているか、市内医療機関に求めているものは何かなど、忌憚のない意見を聞き、目標や課題を共有し、アクションにつなげる場として、企業・医療機関・行政連絡調整会議を設置しました。



▲R5年10月 第2回企業・医療機関・行政連絡調整会議

メンバー 工場長、医師会、病院長、産業医、保健所長、消防長、市長

産業都市ならではの研修会開催にチャレンジ

きらっせプロジェクトでは、地域の優れた産業医と力を合わせて産業医学基礎研修会をスタート。また、労働災害のうち熱傷・薬傷の市内受入体制強化に向け勉強会に取り組んでいます。

神栖産業医トレーニングセンター P9参照
産業医学基礎研修会 P11参照
熱傷・薬傷症例検討会 P11参照

かかりつけ医機能が発揮される制度整備

かかりつけ医機能

身近な地域における日常的な診療、疾病の予防のための措置その他の医療の提供を行う機能。

- かかりつけ医機能報告制度創設
- 医療機能情報提供制度の拡充

期待される効果

- ・ 身近な地域で提供される日常的な診療が充実
- ・ 医師、医療機関との継続的な関係を確認できる
- ・ 大病院に行かなくても身近なところで必要な医療が受けられる
- ・ 誰もが確実に必要な医療につながる環境が整う

厚生労働省資料から

在宅医療について考えよう

通院が難しくなったときや退院後に、自宅等で医療を受けることができます。困ったときのために、前もってかかりつけ医や地域包括支援センターへ相談しているいろいろな選択肢を見つけておきましょう。



地域包括支援センター
(市ホームページ)

救急医療

- ▶ 産業都市に求められる24時間対応する救急体制の実現を目指します
- ▶ 循環器救急のホットラインを整備しました
- ▶ 搬送時間短縮に向け、救急車お断り全事例を検証しました

24時間操業する工場。産業都市に必要なのは深夜も早朝も受け入れ可能な救急体制の整備。厳しい道のりですが、1つ1つの課題に地道に対応していきます。

一刻を争う循環器疾患救急患者の速やかな受入のために、市内外5医療機関、消防本部と市役所が連携して、救急隊と医師を直接結ぶホットラインを設置しています。

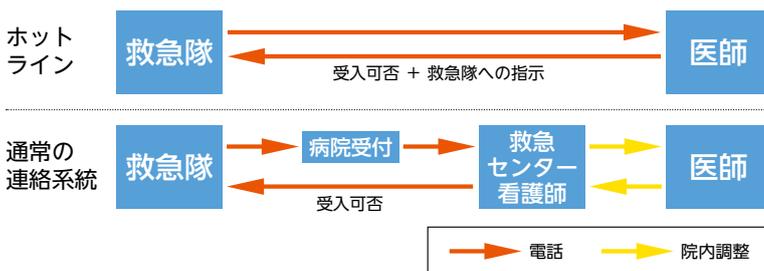
搬送先病院を決定できず、救急車が現場から出発できないことは課題です。救急ワーキングチーム会議では、市内受け入れ医療機関の過去の受入お断り(不応需)の全事例を振り返り、どうすれば受け入れ可能かを検証し、今後に生かしています。

救急搬送データの分析と協議を重ね、受入能力の相互共有と対応策を検討

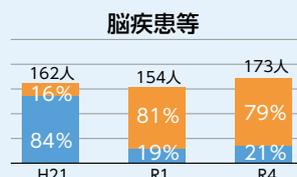
白十字総合病院、神栖済生会病院、鹿嶋ハートクリニック、かみす中央メディカルクリニック、小山記念病院の循環器ドクター、そして消防本部の参画のもとで協議検討し、救急隊と循環器ドクターを電話で直結するホットラインを設置することとし、24時間365日の各医療機関のスタンバイ当番表を毎月作成しています。

鹿嶋ハートクリニックの特例病床増床による病院化は、神栖市、鹿嶋市、潮来市の心疾患救急患者を年200件、脳疾患救急患者を年50件受入増することが見込まれています。

(救急受入要請連絡系統比較)



神栖市発生救急搬送患者数



どうして受入お断り事例が発生するのか？疾患、事故、重症度、発生時刻別などに振り返りました

市内救急医療機関と消防本部、市を構成メンバーとする救急ワーキングチーム会議を設置し、課題改善策を協議しています。令和元年と2年の上期に発生した受入お断り(不応需)事例790件を、各機関で一つ一つ分析し、どうすれば受け入れることができるか検討しました。その結果、スタッフの意識共有や適切な病床管理、院内外の連携強化等の様々な課題がクリアできれば、99.5%の不応需を解消できる可能性があると考えられました。

新たな課題に直面。それでも山積する課題に真摯に向き合っています

コロナ禍の中、発熱患者の救急搬送先が見つからないという事案が多発しました。救急ワーキングチーム会議では、これらの事象をしっかりと反省。産業都市にふさわしい救急体制の実現に向けて、現有資源の中で、今できることにベストを尽くすとともに、将来の目標を見据えて、確実に前進できるよう力を合わせて努力してまいります。

救急隊は指導者を招へいし、訓練を怠らず出動に備えています

救急隊は、コロナ禍にあっても、防護服をまとい果敢に出動を繰り返してくれました。鶴岡アドバイザーのもとで、救急現場に到着した際や救急車の中での的確な救命処置など、様々な状況を想定し、演習や事例の振り返りといった訓練を重ねています。

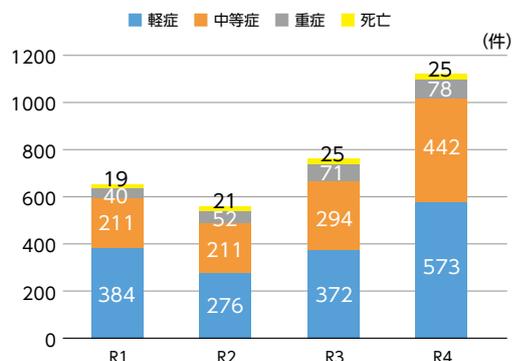


神栖市発生不応需件数

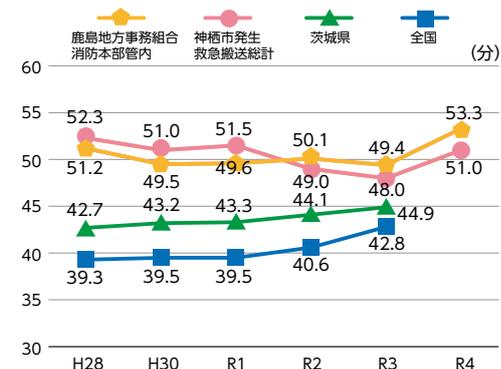
(令和元年4~8月と令和2年4~8月の合計) 単位：件

	平日		休日	合計
	時間内	時間外		
軽症	122	180	137	439
中等症	71	119	89	279
重症	21	12	15	48
死亡	5	7	12	24
合計	219	318	253	790

神栖市発生不応需件数の推移



病院収容平均所要時間比較



救急車を呼ぶか迷ったときは…

いざ急病になったとき、自分で緊急性を判断するのはとても難しいこと。救急車を呼ぶべきか迷う人も多いと思います。そのようなときに役立つのが緊急時サポートシステムです。

まずはこれらの電話相談事業やアプリなどを活用して、それでも迷ったときには、ためらわずに救急車を呼びましょう。



鹿島地方事務組合消防本部
メディカルアドバイザー
(脳神経外科専門医)
鶴岡 信 医師

種類	名称	電話番号、QRコード	内容
電話相談	かみす健康ダイヤル24	0120-1331-69	24時間 年中無休
	茨城子ども救急電話相談	電話番号 #8000	医師や看護師などが対応 急病以外も相談可
	茨城おとな救急電話相談	電話番号 #7119	医師や看護師などが対応
	つくば中毒110番	029-852-9999	365日 9時~21時
	大阪中毒110番	072-727-2499	24時間 年中無休
	たばこ誤飲事故専用電話(自動音声)	072-726-9922	たばこ・洗剤等の誤飲、 中毒について
冊子	救急受診ガイド (家庭自己判断)	消防庁 HP	症状と緊急度の目安を掲載
	子どもの救急って どんなとき?	茨城県 HP	急病時の家庭での対処法、救急外来を受診 する際のポイント、よくある質問を掲載
ホームページ	こどもの救急	日本小児 科学会HP	具体的な症状と対処方法を掲載
無料アプリ	Q助	消防庁 HP	症状などから、緊急度に応じた必要な対応を 表示。119番通報や医療機関の検索も可

医療人材

～きらっせプロジェクトI～

- ▶ 専門医連携プログラムの充実、大学や拠点病院との連携を図っています
- ▶ 医科大学の寄附講座を設置し、指導医等の配置を進めています
- ▶ 過去6年間で、市内専門研修施設の医師が21人増えました

全国の医療機関が、教育研修環境の魅力づくりを競っています。

神栖市では、市内研修医療機関、市内外の指導医の参画のもと、ベテランから若手までがワクワクしながら、学び、働き、活躍する環境づくりを目指す「神栖市若手医師きらっせプロジェクト」を推進しています。

若手医師を呼び込むために不可欠な専門医研修プログラムの数を増やしたり、指導医の配置増のための関係医科大学への寄附講座の設置、そして、市内専門研修施設の教育研修活動への助成、医師への優遇制度の拡充等に取り組んでいます。

きらっせ
プロジェクト
ホームページ



医療に関わるおもしろさを体感してもらうことを目指しています

市内の専門研修施設である白十字総合病院、神栖済生会病院、鹿嶋ハートクリニックでは専門医資格を取得できる連携病院としてプログラムの整備充実と指導医の確保に努めています。



研修プログラムの充実

教育研修活動支援

地域特性を生かした
研修メニューの開発

就業支援・雇用促進

拠点病院との連携

連携プログラムの拡充状況

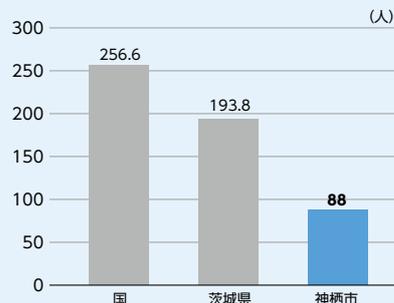
	R元	R5	増減
領域数	8	10	+2
プログラム数	12	25	+13
連携する基幹病院数	6	10	+4

協力型臨床研修病院の指定状況

	指定区分	連携する基幹型病院
白十字総合病院	協力型	筑波記念病院 土浦協同病院
神栖済生会病院		筑波大学附属病院 龍ヶ崎済生会病院

人口10万人当たりの医師数

神栖市が、県平均並みになるには……あと101人必要
全国平均並みになるには……あと161人必要



厚生労働省「令和2年医師・歯科医師・薬剤師統計の概況」

きらっせプロジェクトのこれまでの取組と今後の展望

神栖市は人口当たり医師数が最も少ない地域の1つです。しかし、だからこそ、医師にとって魅力的な仕事ができる場所だと言えます。私自身、30歳代前半に短期間ながらこの地区で診療を経験しました。往診による看とり体験は私の医療感・人生観を大きく変えました。

きらっせプロジェクトはやりがいのある医療を知ってもらうための企画です。市も全面的に協力しています。奨学金の提供、指導医の支援、情報の発信、研修会の開催、看護師の確保など、考えられること全てを行なってもらっています。国内外の留学制度もあります。そのおかげもあってこの地域に若手医師が徐々に増えてきました。いずれ地域完結型の医療体制が整うことを願ってやみません。



コーディネーター 永井 秀雄 医師
茨城県立中央病院 名誉院長
練馬光が丘病院 副管理者

医科大学との連携を強め、安定・継続した医師の配置を促進しています

市単独や県と共同で医科大学に寄附講座を設置し、市内医療機関(神栖済生会病院)を研究拠点として、医師を配置いただいています。診療や教育活動を通じて、市内の医療の充実に貢献いただいています。

また、つくば方面の通勤負担を改善できる方策についての試行事業にも取り組んでいます。

医師が活躍できる環境づくりのため、手厚く充実した「支援制度」を整備しました

地域赴任医師支援金や指導医等赴任手当制度、Uターン推進事業などの医師個人向け支援制度、医師研修事業や医療従事者支援補助などの研修事業支援対策を講じています。

医師不足は依然として大きな課題。それでも医師の市内就業が一步一步進んでいます

きらっせプロジェクトの取り組みに共感するなどして全国から若手医師や指導医が参集しています。3つの市内専門研修施設の医師は、平成29年以降、総勢42人から63人へと21人増えました。実態としては、把握できる範囲でもその間に61人が辞め、82人が新規就業しています。

令和5年度寄附講座の実績

協定大学	設置医療機関	配置医師数	医師数計
日本医科大学	神栖済生会病院	5人	9人
順天堂大学		2人	
筑波大学		2人	
東京医科大学		休止中	

研修事業支援制度

指導手当支給事業	研修医を指導する指導医等に対する指導手当を支援
専任医療クラーク配置事業	研修指導医の事務作業を補助する医療クラークの配置にかかる費用を支援
研修費支援事業	研修医の所属する病院内の医局又は診療科が実施する研修会や交流活動を支援
研修医等生活費支援事業	スポットで赴任する研修医の交通費や宿泊費を支援
医師研修事業	国内外の研修学会において研究発表等を行う場合の費用を支援
医師海外留学事業	1年以上の海外留学を希望する医師を支援
産業医養成プログラム支援事業	産業医業務の実務研修等に参加する常勤医師に対する手当を支援
医療従事者支援費補助金	看護師等の医療従事者の能力向上に必要な教育研修等に要する経費を支援

医師個人向け支援制度

支援メニュー	支援総額(3年間)	主な条件
地域赴任医師支援金	800~1,000万円	免許取得後10年経過、R3以降に初めて赴任した常勤医
	50万円/毎年	免許取得後10年未満の常勤医
指導医等赴任手当	300~1,200万円	R2以降に初めて赴任した常勤医で、プログラムの指導医 鹿行5市・銚子市・香取市・東庄町に3年間住所があった者で、常勤で市内に勤務する者
Uターン医師支援	500万円	

神栖産業医トレーニングセンター

白十字総合病院内と神栖済生会病院内に産業医トレーニングセンターが設置されました。産業医の育成を目的とし、鹿島臨海工業地帯の中で幅広い業種の実務研修が受けられます。社会医学専門医資格などが取得できます。また、ヘルスケアDXなどを利用した健康管理研究も含め、当地域の健康づくり、健康経営のリーダーとしての役割も期待されています。



▲全国から若手医師6人が参集

看護師・医療技術者のスキルアップ

医療技術者の支援制度では、認定看護師や専門看護師の取得研修をはじめ、薬剤師や臨床検査技師などのコメディカルの研修事業をサポートしています。また、急性期病床を有する白十字総合病院、神栖済生会病院、鹿嶋ハートクリニックと市とで看護職合同就職相談会を開催しています。



▲看護職合同就職相談会
於 かみす防災アリーナ

全員参加

～きらっせプロジェクトⅡ～

- ▶ 特色ある研修会を開催。優遇措置を強化し、全国に発信しています
- ▶ 小中学校での医療教育に取り組んでいます
- ▶ オール神栖の奮闘、修学資金を活用した若手医師に期待しています

プロジェクトでは、当市の特性を生かした研修会の企画、各方面からの助言や提案をもとにした優遇措置の拡充、医療教育へのチャレンジや市の修学資金を活用した医学生や修学生医師のサポート、Uターン医師への助成などに努め、取組の持ち味を全国に情報発信しています。

特に、優秀な産業医や企業の皆さんの全面協力により、ユニークで優れた産業都市ならではの学習機会を提供しています。また、少子高齢化社会を支える人材の育成につながるよう医療教育の実施にも取り組むとともに、現在7人の医学生、4人の修学生医師が安心して神栖で就業できる受入環境づくりにも努めています。

他地域にアピールする特色ある研修会として「産業医学基礎研修会」と「熱傷・薬傷症例検討会」を開催

ふたつの研修会は、県医師会や地元の産業医、休日の実地研修をバックアップしてくれる企業の皆さん、そして神栖市の労災救急の搬送先である県内外の救急病院の担当医、さらには全国の優れた専門家などの幅広い方々の力が結集して実現できたものです。このような特色ある取組を発信して、医療界においても産業都市神栖市のイメージの向上と定着を図ってまいります。



地元で活躍する医師

行政とタッグを組んで地域医療を創っていけるのは楽しいです。他の医療機関や救急隊と未来を語らえるのも醍醐味だと思います。今後、最も大事なことは「ヒトを遣す」こと。若手に来たいと思わせる魅力を提供しつつ、地域に定着してもらえる街づくりを進める必要があります。



白十字総合病院
循環器内科部長
村上 大介 医師

情報発信

ホームページの開設、パンフレットやチラシ等の活用、全国誌へのPR記事の掲載、民間エージェントに登録している医師へのメールマガジンの配信など、あらゆる媒体で情報発信しています。

また、医師の合同就職説明会へ出展し、医学生や研修医に市内で働く魅力を直接アピールする場を設けています。



▲全国の病院・医科大学、予備校、県内外の高校、企業等に配布

▲R5年6月に東京ビッグサイトで開催された合同就職説明会

医療担当者も学習指導要領や教科書を熟読。 教師の助言を仰ぎながら指導案を練っています

令和4年度から、市内小学校、中学校各1校で試行授業として医療教育を開始しました。教師の指導方針と医療従事者の知見を生かして、より教育効果の高い手法を検討しています。児童、生徒に対し、命の尊さを知り、弱者を思いやることを育成するとともに、医療への関心を高めてもらうことを目指しています。

実施校

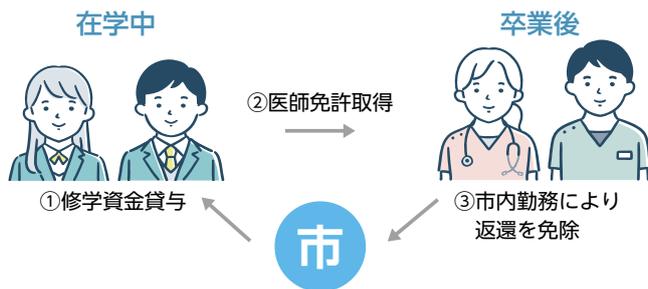
R4	柳川小学校、神栖第一中学校
R5	軽野東小学校、波崎第二中学校

地域出身者や新たに神栖に赴任した人達が、ワンチームとなって貢献してくれています

地域に縁を感じ、愛着を持ってくださっている方々が、奮闘して神栖市の医療を支えてくださっています。医療機関や消防本部、企業や市民、行政など幅広い方々の賛同と参加のもと、力を合わせて山積する課題に立ち向かっていきます。

神栖市医師修学資金制度を活用してくれている修学生や修学生医師の市内就業が近づいています

国内外の医科大学に履修している修学生は7人、卒業した修学生医師が4人、11人の医師が将来、神栖市内で活躍してくれます。安心して、そしてわくわくして神栖市での就業を迎えることができるよう市内の院長や指導医など先輩医師の皆さんがキャリアプランの相談や検討、地域医療実習、病院見学、交流会などでサポートしています。



▲柳川小学校での医師による全体講義
「病気を知ろう、命を助けよう」



▲神栖第一中学校での栄養士によるグループワーク
「栄養を身近に感じてもらう」



▲市内医療機関を知ってもらうため、市修学生と市内の医療従事者との交流会を開催



▲市内医療機関による市修学生の地域医療実習

産業医学基礎研修会

茨城県医師会のご協力、企業の皆様のご支援のおかげで、とても魅力ある研修会として広くアピールできています。令和2年度から令和4年度までに、35都道府県、延べ2,230人の方が受講されています。

参考例：R5年度(予定)

	開催回数	取得単位
前期研修	2	28
後期研修	7	53
実地研修	7	31



▲企業での実地研修風景

熱傷・薬傷症例検討会

企業の要望を踏まえ、市内医師の発案により令和5年度にスタートした勉強会です。講師として、神栖市から熱傷・薬症の救急患者を受け入れてくれた旭中央病院、千葉北総病院、土浦協同病院の専門医にもご協力をいただいています。

皮膚科内科クリヤマクリニックでは、熱傷・薬傷の労災受入に貢献しようと、診療時間内での救急受入の対応を開始。労災指定医療機関の認定も取得。



▲R5年9月の第1回は176人参加

みなさんの声をお聞かせください

本冊子をご覧になってのご意見・ご感想をお寄せください。また、医療について普段からお感じになっていることや情報提供してほしいことなどでも結構です。

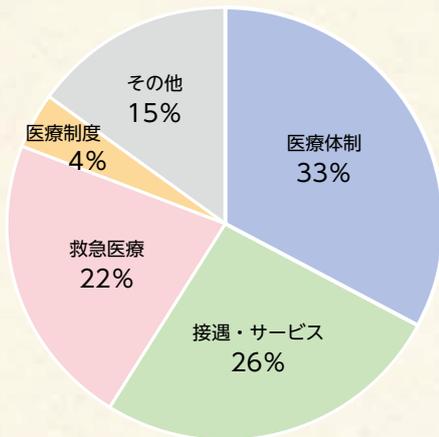
○郵 送 〒314-0192 神栖市溝口4991-5
神栖市役所 地域医療推進課 宛て

○Eメール iryo@city.kamisu.ibaraki.jp
このほか、市内の公共施設に設置した「市長へのたより箱」もご利用いただけます。

令和元年度以降に市民の皆さんから寄せられたご意見

分野別割合

※総数25件



意見例

市内の病院に何度も救急受診を断られ残念。医療従事者を増やしてほしい。

知人が夜勤中の事故で市外に搬送された。工業地帯には労災に対応できる病院が必要。市外では遠すぎます。

安心して出産・子育てができるよう、産婦人科・小児科の充実に期待しています。

市内で不妊・不育治療を受けられる体制を。患者の負担が減り、少しでも子どもが増えることを願います。

脳神経外科、泌尿器科、皮膚科を市内に誘致してほしい。

受診の際、初診は1カ月待ちと言われた。インターネットが使えない人も予約できるようにしてほしい。

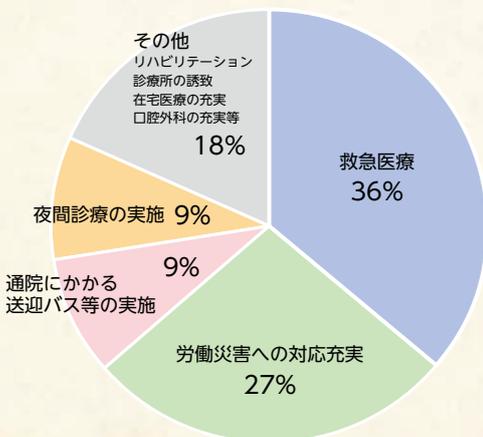


こちらから全てのご意見をご覧いただけます

企業からアンケート等でいただいたご意見

企業が求める医療分野

※総数22件



意見例

夜間や早朝の労災事故に備えて、市内での24時間の救急受入体制の強化を期待します。

勤労者のメンタルヘルスを支える心療内科・精神科の充実を要望します。

退職者や転居者が出ないように医療体制の整備をお願いしたい。

症例検討会を開催し労災の受入強化に取り組んでいただき感謝します。